●◆しゃばのしがらみを、仏の願いの中でいただこう◆●

仏の願い

平成28年 西雲寺だより　早春号(45号)

昨年の暮れ、日本と韓国は、慰安婦の問題で決着をつけたと報じられた。そしてこの問題はこれで終りにして、次の世代に持ち越さないというものであった。何か過去の歴史の負の面は歴史から消し去ってしまおうというふうに受け取られるのである。

日本は日清戦争に始まって太平洋戦争まで長い戦争の歴史がある。そのなかでも日本の植民地とされた韓国は日本に対して屈辱的な思いを今でも持っておられるのだろう。

私たちは戦争の負の面に目を塞ぐのでなく、勇気をもって次の世代に受け伝えていくことこそが大切なことと思われる。

（住職）

釈尊の生涯とその教え①

釈尊（しゃくそん）とは

仏教は今から二千五百年前に釈尊によって開かれた教えです。私たちは親しみを込めてお釈迦様といいますが、正しくは釈迦牟尼（むに）仏といいます。「釈迦」とは釈迦族という民族の名前で、「牟尼」とは尊い人、尊敬に値する人という意味です。「仏」とは「仏陀」の略で「目覚めた人」という意味です。ですから「釈迦牟尼仏」とは、釈迦族出身の尊い人であり、目覚めた人という意味になります。そこから釈迦族の「釈」と尊い人の「尊」を取って「釈尊」とお呼びするのです。ここではお悟りを開かれるまではお釈迦さまと呼ばせていただきます。

仏教とは

釈尊から仏教は始まったわけですが、「仏教」という言葉はどういう意味があるかといえば二つの意味があります。一つは「目覚めた人によって説かれた教え」という意味、もう一つは「目覚めた人に成る為の教え」という意味です。釈尊はご自身悟りを開いて仏になられてから、八十歳で入滅されるまで、毎日毎日広いインドの国を、自分の悟りの内容を語って歩かれたのです。私はこういうことに目覚めました。まことの道理に目覚めると心が明るく、楽になりました。何にも悩むことなく、こだわることなくすむようになりました。だからあなた達も是非、私のようになって下さいと説いて歩いたのです。釈尊は全ての人が自分と同じように目覚めて欲しい、全ての人が仏に成って欲しいと願われたのです。そういうことで、「仏教」を「目覚めた人になる為の教え」というのです。

釈尊の誕生

二千五百年前、はるかにヒマラヤの雪山の見える北インドのカピラ城という町に、シャカ族とよばれる人々が住んでいました。王様を浄飯王（じょうぼんのう）、お妃を摩耶夫人（まやぶにん）といいます。お二人の間には長い間お子さんがなかったのですが、ある晩、お妃は六つの牙を持った光り輝く白象が右脇から胎内に入るという不思議な夢を見られ懐妊されたのです。摩耶夫人は出産の日が近づいてきましたので、おともをつれて実家に向かう途中、カピラ城の東方のルンビニーの森にさしかかり、夫人が無憂樹（むゆうじゅ）という木の枝に右手をおかけになったとき、男の赤ちゃんが誕生したのです。その時天から「甘露」つまり「永遠の生命」といわれる雨が降りそそいだといわれます。不思議なことに生まれたばかりの王子は七歩あるき、右手で天、左手で地を指して、

天上天下唯我独尊（てんじょうてんげ）
（天にも地にも我一人にして尊し）

と宣言されたといい伝えられています。この言葉の通り、この王子はやがて悟りを開かれて「釈迦牟尼仏」となられるのです。これは四月八日のことだといわれ、この日を花まつりとして誕生仏に甘茶をかけてお祝いをするのです。

母親（摩耶夫人）との死別

しかし悲しいでき事が起ります。母親の摩耶夫人が高齢出産で難産であったこともあり体力を回復されることなく、七日後に亡くなってしまったのです。それでお釈迦さまは、摩耶夫人の妹さんによって養育されることになったのです。誕生にまつわる憂い悩みです。お釈迦さまからすればもし自分が生まれてこなければお母さんは死なずに済んだのだ。自分が生まれてきたということと母親の死が出来事としては一つである、これはいかにも不条理なことで、この思いが幼い頃からずっと心から離れなかったのです。この事が後に出家ということに繋がっていくのです。道を求めて人生を問い直すというご縁となったのです。

六道を出る

お釈迦さまは誕生されるとすぐ七歩歩いて「天上天下唯我独尊」と宣言されたといわれていますが、これは教えを受けた後の人々が、お釈迦さまは、お悟りを聞かれる尊い身としてこの世に誕生なされたのだと受け止めたのです。七歩歩かれたということは、六道を超えるということです。六道とは、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天という六つの迷いの世界のことです。この六道という迷いの世界を超えて初めて、人間として生まれたいのちの尊さに目覚めることができるということを示しているのです。地獄とは苦しみに支配されている世界、畜生は本能に支配されて恥ずかしさを知らない世界、修羅は怒り、憎しみでいっぱいかばかりしている世界、人とは人間界のこ

とで楽を求めて苦しんでいる世界、天とは天界のことで思いがほぼ叶った世界です。一番てっぺんが有頂天で思いがすべて叶って得意満面の状態をいいますが、限りがありいつか天界からすべり落ちなければなりません。その時の苦しみは地獄の苦しみより苦しいといわれています

このような苦しみの世界がどこかにあるのではありません。私たちが自らの無明煩悩によってつくり出している境界です。私たちは朝から晩までこの六つの境界を行ったり来たりしているのです。腹を立ててみたり、欲を起こしてみたり、けんかしたり、また時には有頂天になっている時もあるのです。これが私たちの一日、一生の間の迷いの姿なのです。このような有方を六道輪廻、生死流転（しょうじるてん）といいます。私たちは人間に生まれてくる前もこのような迷いの世界を経巡って来たのであり、死んでから後もまた六道を経巡って行かなければならないのです。私たちはこの六道を超えたところに人間と生まれたいのちのよろこび、尊さに目覚めることができるということを、この誕生のお言葉は私たちに教えているのです。

国宝 誕生釈迦仏立像
東大寺蔵 奈良時代

いのち尊し

天上天下唯我独尊というと、俺はこの世で一番偉いのだと威張ることのように受け取られますが、そうではなく、生きとし生きるもの皆平等に尊いいのちを生きているのだということを示しているのです。そうはいわれても人間は他の動物とは勝っていると思いがちですが、人間はチエがあるだけ、悪を造り苦しんでいるのです。他の動物は無駄な殺生はしませんが人間はよりおいしいものを求めて一生の間殺生を繰り返して生きているのです。私たちのいのちが平等に等しいということは、無条件に尊いということです。しかし私たちは無条件にこのいのちをよろこぶことはできません。他と比べて、才能や地位、財産など何かの条件をつけてしかよろこぶことができないのです。そこにいつも不平不満があり、本当に生きたことにならないのです。天上天下唯我独尊ということは「独立者」ということだと言われます。自分の才能や地位や名誉によって自分を支えるのではなく、自分自身に目覚め、自分にかえった時に独立者となるのです。親鸞聖人は『歎異抄』のなかに、

弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。
されば そくばくの業をもちける身にてありけるをたすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ。

といわれていますが、親鸞聖人は弥陀の本願に出遇うことによって「親鸞一人がためなりけり」と独立者となられたのです。弥陀の本願の中に見い出されていた罪悪深重としての我身に深々と頭が下がったのです。

人身受けがたし

お釈迦さまはある時、お弟子さんたちを前に次のような喩えでもって人間に生まれることの稀なることを説かれました。

「比丘たちよ、この大海に一本の枯木が浮んでいるとする。この枯木には一ヶ所だけ穴があいていたとする。そしてこの大海に一匹の盲目の亀がいて、百年にただ一度だけ、海面に浮かんできて首を出すという。その亀が海面に浮んできて、その枯木の穴に首を突っこむということがあるだろうか」

「もし、そういうことがあるとしても、いつのことかわかりません」

「比丘たちよ、その通りである。だが、百年に一度だけ海面に浮かぶ盲目の亀が、枯木の穴に首を入れるよりも、なお希有なことがあると知らねばならない。それは一たび悪しきところに墜ちたものが、再び人身を得るということは、更に希有であるということである」

この言葉のこころを仏教徒たちは、次のような偈をもって表現し唱え続けています。

人身（にんじん）受けがたし　今すでに受く
仏法あいがたし　今すでに聞く
この身、今生において度せんずば
いずれの生においてかこの身を度せん

私たちは今人間として、この世に生を受けていることを、あだおろそかにしてはいけないのです。

（住職）

ご本山御正忌報恩講団体参拝

平成 27 年 11 月 27 日　　またお参りいたしましょう

おかみそりを受けてくださった方々

本廟で正信偈のおつとめ。北府の光善寺さんと一緒に。

大谷前総長の法話を拝聴しました

ついたての中でストーブを焚いて聴聞します

法話は野世信水師。黒板には厳しい言葉…

来年、ぜひお参りください

西雲寺御正忌報恩講

11月28～30日

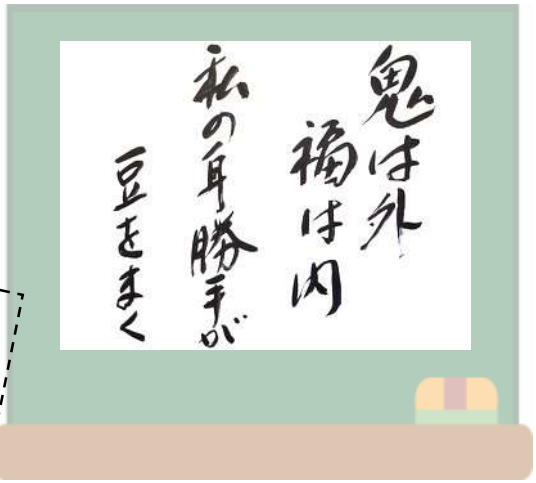
小勢ですがなごやかなおときの時間です

囲炉裏を囲んでお仏飯のおじやを頂きます

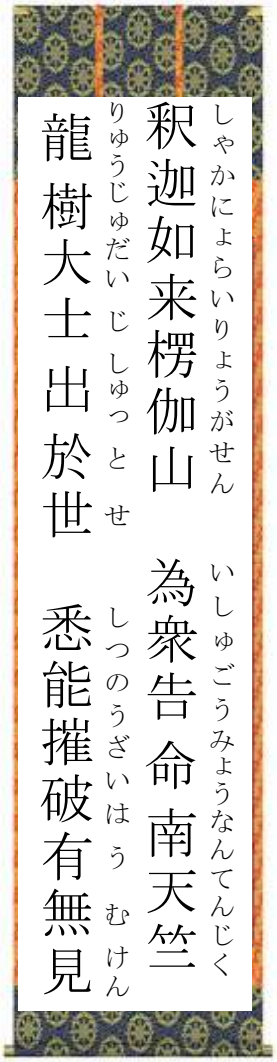
「鬼は外、福は内」節分がくるとテレビ、ラジオ、新聞でにぎやかに報道される常套句である。いつの時代でも、いかなる人でも幸福を願望しないものはいない。しかし何が本当の幸福かを知る人は少ない。私たちはお金があれば、健康であれば、家庭がうまくいけば幸せと思っているが、世の中には、お金に困っている人、病気で苦しんでいる人、家庭の不和で悩んでおられる人がいっぱいおられるのである。私だけ、私の家庭だけ幸せでよいのだろうか。私たちは人生を、喜びや幸せで押えますが、人間としてもっと深いいのちを生きたいという願いをもっているのです。如来さまは、私たちを喜びや幸せを与えて救おうとはせず、大いなる悲しみ「大悲」をもって救おうとされるのです。老・病・死する身、孤独の身を生きなければならない私たちを大悲をもって救おうとされるのです。私たちに最も大切なのは、この「悲」の感覚ではないだろうか。

（住職）

山門掲示板



『正信偈』に先輩の感動あり！



しゃかにょらいりょうがせん　いしゅごうみょうなんてんじく
りゅうじゅだいじしゅつとせ　しつのうざいはうむけん

読み方

釈迦如来、楞伽山にして、衆のために告命したまわく、南天竺に、龍樹大士世に出でて、ことごとく、よく有無の見を摧破せん。

意味

お釈迦さまは楞伽山で衆生に告げました。「私が命終えても大丈夫。南天竺に龍樹菩薩が誕生して、大事な教えを受け継ぎ、また次の世代へと渡してくれます。大事な教えとは、人間の知恵で解決できると思うのも間違いだし、すべてが無意味だと思うのも間違い、そんなところから始まります。」

疑いもご縁　納得もご縁

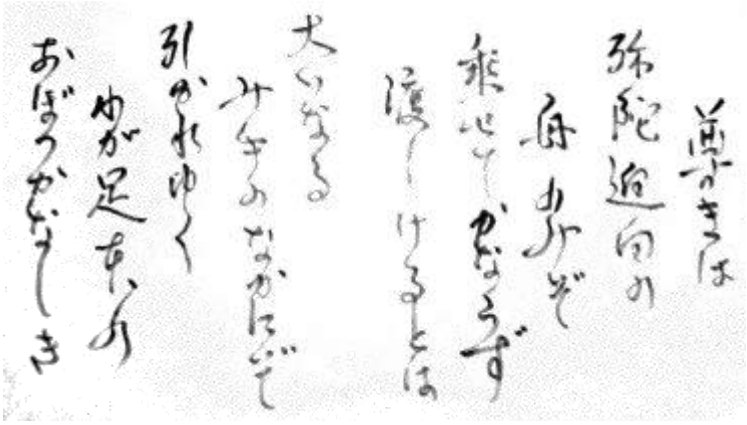
☆なるほど。ご自身が死んでも教えは死なないっていう安心が大きな救いやったのか！

★でも、なんで死後のことを信頼できたんやろ。僕はどうやったら安心できるんやろ…

図書紹介

学習研究社　２０１５年　税込１５１２円
（西雲寺では１０００円にてお求めいただけます
ご希望の方はお寺までご連絡ください）

本山佛光寺の山門掲示板の言葉を集めた写真集です。テレビでも話題になりました。仏教の入門書として是非ご活用ください。



西別所町　釈真光妙映

ゴンが息を引き取りました

1月14日

ゴン　ありがとう！
16歳でした

近所の子供たちも
弔ってくれました

皆さまには　よくして
いただきました　あり
がとうございました

発　行
真宗仏光寺派 専念山 西雲寺（さいうんじ）
住職　護城一寿
筆頭総代　吉川芳弘
編集責任者　護城一哉
〒910-3523　福井市武周町５－２
電話　0776-97-2138
メール　kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ　http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！

お寺から郵送いたします。どうぞご遠慮なくお申し出下さい。

みなさんの声　大募集！

原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。